

別海町立西春別小学校 学校だより



からまつ No.6

平成30年 7月 2日発行 発行責任者 校長 金森 卓哉

長い距離を歩き通して

校長 金森 卓哉

草地では一番草の刈り取りで非常に忙しい時期を迎えて、トラクターの音が夜遅くまで聞こえてくる日もあります。また、これまで育った緑の牧草が刈り取られ、草地がすっきりとした様子になると、そのどこまでも続く広さを改めて感じるものです。

さて、6月15日（金）に全校遠足がありました。天候では寒さが心配されました。5、6年生は8km、3,4年生は5km、1,2年生は4kmの距離を歩くことにしました。目的地は、中標津の開陽台です。開陽台から測り、それぞれの距離の場所からスタートです。最初にバスを降りて歩き出したのは、高学年の5,6年生です。

8kmという距離は決して短い距離ではありません。13人の子どもたちは最後まで頑張ってくれるだろうかという思いもありました。中学年は5kmといつもの元気で歩き通してほしいと思っておりました。また、低学年については4kmと、小さな体だけにみんなで励ましあって歩き通してほしいと考えておりました。

救護車を運転して、子どもたちと担当する先生が歩く様子を何度も見に行きました。良かった点は、担当する先生と先生の間の子供たちが入り、列を崩さず、バラバラにならないで1列になって集団として歩くことができたことです。道路ですから車が通ります。歩道を1列になって歩くことが安全面では1番大切です。これは、どの学年もできていました。そして、全員が目的地の開陽台まで歩ききることが出来ました。中には、途中で止めたいと心の中で思った児童もいたかもしれませんが、そのような気持ちに打ち勝って歩ききったことは立派でした。お昼は、お母さんに作っていただいたお弁当をおいしく食べました。ご協力ありがとうございました。

北海道新聞、6月25日（月）の夕刊（10面）『はいはい道新』にこんな記事が載っておりました。「たくさんの人にお世話になりました」という題でお礼の文章です。それは、旭川の75歳の主婦の方からです。天気の良い日に旦那さんと石狩市浜益区に車で観光とお買い物した日の帰りのことです。運転を誤って車が路肩から逸脱してしまったそうです。2人は、逸脱してしまったことにおろおろしてしまいました。その時、後ろを走行していた車の男性が降りてきて「大丈夫ですか？」と声をかけてくれ、近くの駐在所に連絡をして警察官が駆けつけ、レッカー車もきて車が引き上げられたようです。それらの方々のお陰でこの逸脱の事故から救われたそうです。短い文章でしたが、ご夫婦のほっとした感謝の表情と協力して助けにまわった方々のほほえむ表情が浮かんでくるようでした。新聞のこの欄を利用させてもらってお礼を伝えなかったようです。そして、このような素晴らしい方がおられることをたくさんの方に知ってもらいたかったのかもしれない。困っている気持ちを押し量り、協力し合って助けてあげる。それが全く知らない方であっても。困っている方を助けてあげようという心と、助けていただいた時の感謝する心が伝わり、2つの心の繋がりが読む側の心に響いたように思えました。学校でもこの感謝する心、困っている人を助けるという心が子どもの心の中で育ってくると、と考えます。

先週は、修学旅行がありました。体験学習をするということで、斜里駅から小清水原生花園駅まで列車に乗りました。子どもたちは自分で切符を買い改札を通過して乗車しました。どの子もニコニコ顔でした。原生花園駅ではオレンジ色のエソスカシユリとレモン色のエソキスゲが、雨の中きれいに花を開き迎えてくれました。

